

# 人々をつなぐ多様な立体広場

仙台はじまりの地である青葉山エリアの歴史を引き継ぎ、周辺施設や自然環境、そして人々をつなぐ多様な立体広場としての複合施設を提案します。

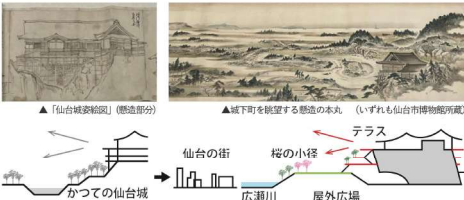


中ノ瀬橋上から。周囲に向かって床高さを徐々に低くすることで、建物の圧迫感を弱め、青葉山のランドスケープに自然とつながるよう計画。

## 設計コンセプト

### 仙台城と青葉山の歴史を引き継ぐシンボル

かつて仙台市を見下ろす山頂に建てられた仙台城に、感徳と呼ばれる来客を迎える眺望の場があったように、青葉山の延長と捉えられる床の横層と、特徴的なルーフスケープによって、まちの歴史を引き継ぐシンボル性の高い行来をつくる。



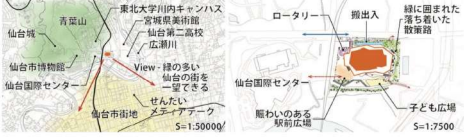
## あらゆる場所が大小の立体的な広場となる

本プロジェクトの基本理念「人・文化・まちを育む創造の広場」を実現すべく、音楽ホールおよび震災メモリアル拠点という二つの核を中心に、人々の出会いの場となる広場が施設全体に立体的に展開し、コンサートや演劇、ダンス等多様な活動が同時に行える。また、駅から自然にアクセスできる吹抜け「交流広場」を震災メモリアル拠点の入口とすることで、施設を訪れる誰もが震災の記憶に自然と触れられる計画とする。

## 青葉山エリアの中での位置づけ・果たすべき役割

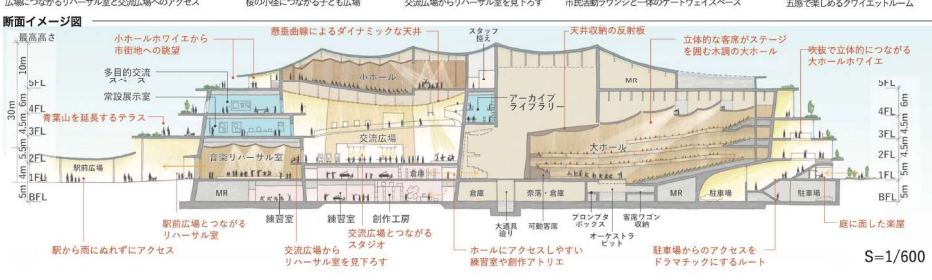
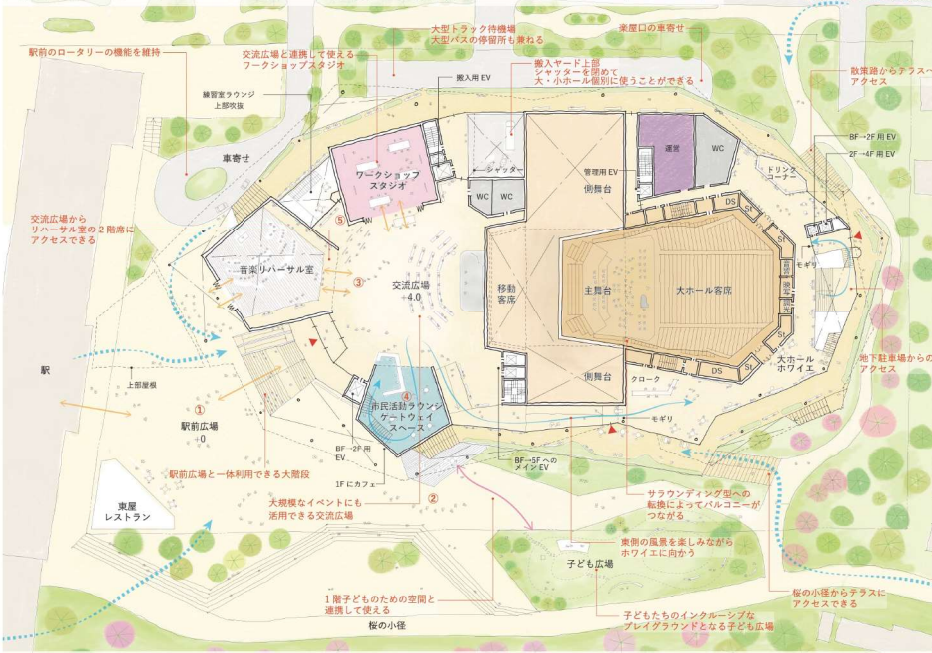
### 市街地への眺望／周辺地域をつなぐ広場

・小ホールホワイエを眺望の場とするともに、横層する床にテラスを設け、仙台市街地を一望しながらまちの未来を考える場となる。  
・駅に隣接し、多数の文化・教育施設、広瀬川等の豊かな自然環境に囲まれた土地の利を生かし、本施設をエリア全体の広場と位置付ける。多角形ボリュームによって、駅前のにぎわい広場、子ども広場、森の広場、車寄せ等の多様な広場が生まれ、施設を目的としない人も日常的に通り抜け、震災の記憶やホールの活動に自然と出会えるきっかけをつくる。



## 配置兼主要階平面イメージ図

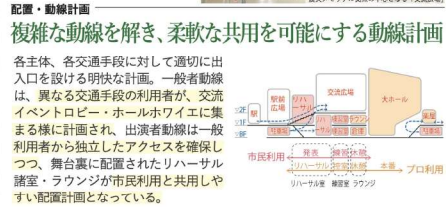
### 周辺のランドスケープと一体となり様々な広場へとつながるメインフロア



## 中心部震災メモリアル拠点としての考え方

### 訪れる誰もが自然と震災の記憶に思いを馳せられる中心部震災メモリアル拠点

中心部震災メモリアル拠点の中心に「交流広場」を位置付け、展示・交流連携・ゲートウェイスペースを取り巻き、それらを立体的な道でつなぐ構成とする。道は各ホールへのアクセスにもなっており、メモリアル拠点に目的を持って訪れる人ももちろん、ホールへの来場者や目的なく訪れた人も、自然と震災の記憶に触れ、自分ごととして考えられる計画とする。



## 複雑な動線を解き、柔軟な共用を可能にする動線計画

各主体、各交通手段に対して適切な出入口を設ける明快な計画。一般者動線は、異なる交通手段の利用者が、交差点イベントロビー・ホールホワイエに集まる様に計画され、出演者動線は一般利用者から独立したアクセスを確保しつつ、舞台裏に配置されたリハーサル諸室・ラウンジが市民利用と共用しやすい配置計画となっている。

## RCと鉄骨の合理的計画と懸垂梁による大スパンの実現

大ホールやリハーサル室、展示室などの音響に配慮すべき室をRCボリュームとし、周辺に鉄骨造のスタジアムと最上階屋根が取り付く構成。交流ロビー上部の小ホールは懸垂梁とすることで40mの大スパンを実現する。



| 各階別延床面積表       | [エリア別延床面積]   |
|----------------|--------------|
| B1F: 18360㎡    | 延床面積: 29410㎡ |
| B1F+1F: 17720㎡ | 延床面積: 10350㎡ |
| 2F: 43300㎡     | 延床面積: 14800㎡ |
| 3F: 3290㎡      | 延床面積: 2200㎡  |
| 4F: 4139㎡      | 延床面積: 3900㎡  |
| 5F: 4126㎡      | 延床面積: 3710㎡  |